

## 2017 年度聖書の集い（第 6 回）

2017 年 11 月 8 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannari.com/>

古本 靖久

- 1、聖歌 4 番 「けさもわたしの」
- 2、お祈り
- 3、聖書 マルコによる福音書 10 章 13 節～16 節  
(新約聖書 81 ページ)
- 4、今日の内容  
キリスト教のおまつり「⑥ 子ども祝福式」



今月は「子ども祝福式」についてです。桃山基督教会では 11 月 19 日(日)におこなわれます。日本の伝統行事にも「七五三」というものがあり、11 月 15 日前後にはスーツや羽織、着物姿の子どもを連れた多くの人たちが、前の道路を歩いていきます。

それでは教会の「子ども祝福式」と七五三にはどのような共通点があり、また違いがあるのでしょうか。見ていきましょう。

### ① 子どもの成長を感謝する

子ども祝福式にも、七五三にも共通していること、それは子どもの成長に感謝することです。調べてみると、日本では現在でも 4,000 人に一人の子どもが、1 歳から 4 歳の間に亡くなっているそうです。

しかし江戸時代はもっとひどく、乳幼児の間に約半数の子どもが亡くなっていたといえます。たとえば、12 代将軍の徳川家慶には男女合わせて 27 人の子どもがいましたが、成人を迎えたのはわずか 1 人でした。将軍家ですらこうです。普通の家族では、なおさら厳しかったことでしょう。今のような医学も薬も注射もない時代です。風邪をひいただけで、命とりだったのです。

だから、子どもが大きくなることを、神さまに感謝するということはごく自然のことでした。それは聖書の世界でもそうです。子どもが無事に大きく育っていくことが、何よりも喜びだったのです。

## ② 子どもを招く

さて、今日の聖書には、イエス様のところに子どもたちを連れてきた人々を叱る弟子たちの姿が描かれていました。みんなイエス様の話を聞きたいのに、やかましい子どもたちが来たので叱ったのでしょうか。

弟子たちが叱った理由は、それだけではありませんでした。当時の社会では、子どもの人格は認められていませんでした。子どもは大人たちに従属しており、社会の一員として数えられることもありませんでした。

こういう話を聞くと、少し眉をひそめてしまうかもしれませんが、現代の日本でも同じようなことがあるのかもしれませんが。パチンコするのに子どもが邪魔だから車の中に放置する。友達と遊ぶために子どもだけで留守番させ、何日も帰ってこない。子どもは自分のものだと勘違いし、言うことを聞かなくなると暴力を振るい、命を奪ってしまう。

しかしイエス様は、子どもたちに目を留め、抱き上げ、祝福されました。誰の目にも留まらないような小さな存在。無視され、外に追いやられていた子どもたちを手招きし、みんなの真ん中に呼び寄せ、手を置いて「神さまが守ってくださいますように」と祈る。そのイエス様の姿を思い起こし、わたしたちもまた子どもたちを招き、神さまの祝福を願うのです。

## ③ 子どもを通して、神さまの愛を知る

「子どもを祝福する」、そこだけを見ると、わたしたちが何か、「子どものためにしてあげた」という感じに捉えられるかもしれませんが。しかしイエス様は子どもたちを見ながら、「神の国はこのような者たちのものである」と言われています。

子どもたちは本当に素直だな、と思います。うれしいときは心の底から笑い、悲しいときには思いっきり泣く。お友達が困っていたらお顔全体で心配をする。きっと神さまが子どもたちをたくさん愛しているから、自然とその愛があふれているのだと思います。

わたしたちは子どもたちから、多くのことを学びます。やさしさ、気遣い、お母さんが悲しい顔をしていたら、そっと手を握ってくれる。その愛を知り、温かい心になったときに、わたしたちもまた神さまから大きな祝福をいただいているのです。

＜桃山基督教会での礼拝のご案内：どなたでもお気軽にどうぞ＞

日曜学校（子どもの礼拝）： 毎週日曜日 午前 9 時 30 分から

日曜礼拝： 毎週日曜日 午前 10 時 30 分から